

# 2014 年 フランス海外スタージュ 報告書

フランス語教育スタージュ運営委員会編

日本フランス語フランス文学会、日本フランス語教育学会、在日フランス大使館

本報告書は、2014年3月22日～25日に実施された日本フランス語フランス文学会、日本フランス語教育学会、在日フランス大使館主催のフランス語教育国内スタージュの修了者のうち、2014年8月にフランス（ブザンソン）で実施された教員研修コースに参加した方によるフランス海外スタージュの報告書です。報告書への記名、無記名については各報告者の意向を尊重しました。

## 2014年夏期フランス語教員研修報告（ブザンソン、CLA）

奥 香織

8月前半（8/4-8/14）に、フランス、ブザンソン CLA にて、夏期フランス語教員研修を受講させて頂いた。

研修内容は各自が選択できる仕組みになっている。研修は午前中に二つ、午後の一つであるが、その後の時間に「フォーラム」あるいは「アトリエ」を選択して受講するようになっており、以下の研修およびフォーラムを受講した。

研修：

午前1：Pratiques de classe : Enseigner dans une perspective actionnelle (L. Monsaco Danas)

午前2：Apprendre et enseigner la grammaire autrement (D. Roy)

午後： Enseigner la phonétique par le rythme et le mouvement (R. Llorca)

フォーラム：

1. Dynamiser ses pratiques de classe à l'oral avec la démarche RFI (8/5)
2. Présentation du *Nouveau Dictionnaire des difficultés du français* (8/6)
3. Apprendre et enseigner le français... de la tête aux pieds ! Pour une approche active de l'enseignement du FLE aux jeunes publics (8/7)
4. Apprendre et enseigner avec TV5 Monde (8/11)
5. Victor Hugo, l'homme et ses combats, d'hier à aujourd'hui (8/13)

\* フォーラムは、人数制限があるものもあった。

午前1の研修（Pratiques de classe : Enseigner dans une perspective actionnelle）では、フランス語教育の方法についての歴史、現状およびCECRについての説明がなされた後、2～3人のグループになって一つの教科書を選び、「学習者を自主的に参加させる授業」、「実践を見据えた授業」を展開するための方法、手順を話し合い、発表した。東京での研修で得た知識と反省も踏まえて授業を組み立てることを試みた。また、授業を組み立てるにあたってメディアテックを訪れ、フランス語の文化や社会に関する文献を探し、それらも参考にしながら授業の準備にのぞんだ。

午前2の研修（Apprendre et enseigner la grammaire autrement）では、文法を「教員による文法説明」ではない方法で教える様々な可能性を学んだ。例えば学習者に短いフランス語の文章を与えて読ませる場合、こちらで全て文法事項を解説するのではなく、学習者自身に何らかの規則を見出させるという方法、冠詞が多用されている歌を用いて文法を学ぶ方法、あるいはイラストを多く用いて視覚的に文法の規則を体感させる方法などである。

午後の授業（Enseigner la phonétique par le rythme et le mouvement）では、フランス語の音、発

音、抑揚、リズムを、身体の動きや歌と組み合わせて学ぶ／教える方法を学んだ。全員で輪になり、あるテーマに沿って順番に発言していく方法（リズムよく発音しながら）や、韻を踏む短いフランス語の詩を作って発音することで、フランス語をリズムと身体の動きと共に学ぶ教授方法を学んだ。また、講師ロルカ氏主催で、フランス語のリズム・音を素材としたスペクタクルも開催された。

フォーラム 1 (Dynamiser ses pratiques de classe à l'oral avec la démarche RFI) では、ラジオ・フランスが提供する素材を用いての授業展開の可能性についてレクチャーがなされた。特に聴覚に訴える素材の利用方法についての説明があった。

フォーラム 2 (Présentation du Nouveau Dictionnaire des difficultés du français) では、フランス語の難しさに関する辞典についてのレクチャーが、執筆者であるコラン氏によって行われた。

フォーラム 3 (Apprendre et enseigner le français... de la tête aux pieds ! Pour une approche active de l'enseignement du FLE aux jeunes publics) では、理論的な説明をせずに子供にフランス語を教える方法、特に身振りや視覚に訴える教材を用いて教える方法を学んだ。子供に教えることに重きが置かれてはいたが、フランス語のみで教える際に身振りや視覚要素が重要となるのは大人にとっても同様であるため、応用可能な部分が多いと感じた。なお、レクチャーの中でこの方法を実践してみせる場合、フランス語で行うと即座に理解されてしまって意味をなさないため、「全てをドイツ語で話して身振りをを用いる」という方法が取られた。

フォーラム 4 (Apprendre et enseigner avec TV5 Monde) では、TV5 がネット上に開設している「フランス語教育」のページについて、その活用方法が説明された。このページは世界各国から無料でアクセス可能で、またレベルも段階分けされて充実しており、さまざまに活用できることを学んだ。

フォーラム 5 (Victor Hugo, l'homme et ses combats, d'hier à aujourd'hui) は、実際にヴィクトル・ユゴー記念館 (Maison Victor Hugo) を訪れ、ユゴーにまつわる展示品についての説明がなされた。また、文学、演劇など、ユゴーが携わった分野について、それぞれ詳細なレクチャーがなされた。

なお、滞在先はアパートメント型のホテルであった。各部屋にはシャワーや冷蔵庫のほかに調理器具も全て備えられており、大変快適に過ごすことができた。研修が行われる場所へは徒歩で 10～15 分と、立地も便利であった。また、研修会場には、毎日コーヒーやサンドイッチの売り場が設置された。近くには、フランス語教育に関する書籍（教科書や研究書）を豊富に揃える書店もあった。

以上のように、大変快適な環境の中で、充実した研修を受けさせて頂いた。

## 2014 年度 FLE 教員養成・CLA 夏季スタージュへの参加報告書

森 千夏

参加者	森 千夏
研修期間	2014 年 8 月 4 日(月)～8 月 14 日(木)
受講内容一覧 受講名(担当講師)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Apprendre et enseigner avec la chanson francophone (M. D. Roy)</li> <li>- Enseigner la littérature en classe de langue (M. J -M. Frisa)</li> <li>- Enseigner la phonétique par le rythme et le mouvement (Mme R. Llorca)</li> </ul>
受講フォーラム 一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Dynamiser ses pratiques de classe à l'oral avec la démarche RFI (M. J. Cousseau, Service Langue française, Radio France Internationale)</li> <li>- Le français familier et argotique (M. P. Richetto, enseignant au CLA)</li> <li>- Mode d'emploi pour une pédagogie active (Mme C. Collomb, intervenante au CLA)</li> <li>- La femme et sa représentation dans l'art occidental (Mme I. Sombardier, Musée des beaux-Arts et d'archéologie, Besançon)</li> </ul>

スタージュ参加者は、修了書を取得するために、3 コマのモジュールと最低 4 つのフォーラム(あるいはアトリエ)に出席することが義務付けられている。予め計画されている様々なモジュールのうち、私は初級の学習者を対象にした文法の授業をもつ機会が多いことを鑑みて、発音とリズムの授業と、以前から授業に取り入れたいと考えていた歌の授業を選択した。また、文学の授業を受講したのは、春に行われた東京でのスタージュにおける Roux 先生が行われた授業——文学テキストを生きた資料(document authentique)として用いた FLE の授業の提案——に興味をもったからである。

以下、各々の授業の内容を簡潔にまとめていく。

### 1. Apprendre et enseigner avec la chanson francophone (M. D. Roy)

参加者は 12 名程度で、私と同じく比較的若年層を学習者とした初級者を対象にした授業を担当している者が多かった。私たちが抱える共通の問題点として、①選曲のミスマッチ（教員は自分の知っているピアフ等の歌謡曲、いわゆるシャンソンを使用しがちであるが、10～20 代の学習者はあまり興味を示さない）と②歌を使用した活動のマンネリ化（ほとんどの教員が、歌詞を聴き取った後に、歌詞を読み、単語や文法を確認するという授業構成だった）が挙げられた。

このモジュールにおいて Roy 先生は、実際に十数曲の歌謡曲を毎回紹介しながら、それぞれ異なるアプローチで授業を構成してみせた。そして、学習者のレベルに合わせて、活動内容やアプローチの仕方をいかに変えるかについて幾つかの案を示した。最終課題として、参加者は、予め配布された音

楽ファイル『Génération française』のコンピレーション・アルバムの中から、各自一曲を選曲後、その授業計画を立て、口頭発表を行うことが課された。『Génération française』という音楽アルバムは、世界におけるフランス語圏のアーティストの知見を広めることと、フランス語の教員が授業でフランス語圏の音楽や歌を用いるのに役立つことを目的としており、各々の曲を用いた授業の構成案のようなもの(fiches pédagogiques)が付属としてある。これらを参考にしながら自分の授業計画を立てるのであるが、私は自分のパソコンを持参していなかったせいで、選曲とこれらの資料にアクセスする時間が限られてしまい、満足のできる発表ができず悔しい思いをすることになった。参加者の発表の中には参考にしたいと思える、面白いものもあった。また、最終授業では、インターネット上の動画や楽曲のダウンロードの方法、歌詞や歌手の情報を掲載するホームページ、FLE 教員が実際に作成した授業内容や配布物を公開しているサイトなどの具体的で実用的な情報が紹介された。

このモジュールにおいて最も興味深かったのは、歌を、発音とリズムを学ぶための音声素材とフランス語の学習のためのテキストとしての歌詞としてのみ捉えるのではなく、歌に関連するアーティスト、映像、文化（ジャンルや地域）も含めて授業を構成している点である。音楽、歌詞、曲の世界を理解するために、映像（PV・MV）とともに歌を聴いたり、アーティストのインタビューや音楽的影響関係について紹介されたり、歌とその時代の社会や文化との関連性（政治的メッセージ等）についても言及されたりと、様々なアプローチがとられた。また、歌謡曲の歌詞にはカジュアルな口語表現や隠語、省略語が多く、押韻などの配慮もあり、語彙のレベルにおいても言語的に非常に興味深かった。このような活動の多様性から、歌を用いた授業の可能性を感じる一方で、私個人の課題といえるだろうが、限られた時間内で円滑に授業を進めるために AV 設備を使いこなす必要性と、歌やアーティストについての知識を深める必要性を強く感じた。

## 2. Enseigner la littérature en classe de langue (M. J -M. Frisa)

上で述べたように、春に受けた文学テキストを用いた活動についてさらに深く学ぶためにこのモジュールを選択したが、結果として Frisa 先生のモジュールでの文学テキストの使用法は、Roux 先生のそれと大きく異なっており、文学テキストの読解が可能な中・上級の学習者を対象とした授業が想定されているようだった。参加者が9名の少人数のクラスで、授業は様々な現代文学（10年以内出版されたベストセラー）のテキストの読解と議論を中心に行われた。これまでに文学テキストを授業で用いたことのある参加者はいなかった。私は文学史や文学批評、文学技法に焦点をあてた文学テキストの読解、いわゆる大学で行われている文学の講義とどのような点で異なるかに注意を向けながら受講した。

このモジュールでは、文学を芸術的遺産として捉え、執筆されたテキストのみを対象とするのではなく、音声化、音楽化、映像化された文学すべてとそれらのパラテキストを対象として、文学とわれわれの現実生活の関わりを重要視しているようだった。授業では、作家のインタビューや内容にまつわるスケッチの映像を見ながらテキストへの読解を深めたり、テキストの内容に関する議論から発展して、現実のわれわれに関わる問題として捉え直して意見を交わすことも多々あった。さらに、テキ

ストを端緒として、フランスの歴史や社会の現代的な問題（都市計画や郊外など）の知識を深める、読書行為の変化や重要性、環境などを問い直す(読書の場所、精神状態、視覚的か聴覚的か等)、簡単な創作を行う等、派生した様々な活動を行い、非常に興味深かった。また、授業の開始時には、毎回作家の詩を歌詞として採用した著名な歌手の歌謡曲を聴かされたことも付け加えておく。

学習者は読む、聴く、書く、話すという総合的な能力が求められるため、語学レベルのそれほど高くない学習者に対して、難易度の高いこの授業の質を下げることなく、文学を素材とした授業を行うことがいかに可能であるか（おそらくは日本語と併用しながら授業を進めることが望ましいに違いない。）を検討することが、個人的な課題として課せられた。

### 3. Enseigner la phonétique par le rythme et le mouvement (Mme R. Llorca)

参加者 16 名の人気の高い授業で、非常に活気のある活動中心の授業だった。私はアクセントや発音を専門にした授業を、かつてアンスティチュ・フランセ東京で一年間学んだ経験があったので多少は心得ていたが、発音や音声学に精通している参加者は少ないようだった。コメディエヌでもある Llorca 先生の授業の最も重要な特徴は、フランス語特有のアクセントやリズムを表情や体の動き・仕草と共に習得しするという独自のやり方を採用している点にあるが、実践を通して身体で感じながら覚えることにより、専門用語を交えた理論の説明を容易に理解することが可能だった。また、授業では比較言語的な取り組みもあり（それぞれの言語で同じ言葉を使ってみせて、リズムやアクセント、動作がいかに変化するかを考える。）、日本語とフランス語の音声的な特徴の違いを意識するよい契機を与えてくれた。

実施された活動は、言葉遊び、ゲーム、演劇のような含まれたものなど多様で、楽しい上に簡単で、かつ日常的な語彙と易しい文法が使用されているために、対象とする学習者は初学者から上級者まで幅広い。日本人にとってしばしば難解な母音の発音も、両腕の上下開閉の動きを伴うことにより、それほど口の形や舌の位置を意識しなくても自然に発音ができることに非常驚いた。言葉と仕草を一体にしてリズムと音を体に覚えさせるやり方は、特に外国人学習者がフランス語の音声的特徴を耳と口に定着していくのに、非常に効率的で効果的なように思われた。

最終授業では、それまでの授業の実践・演習の理論づけが行われ、さらに理解が深まった。Llorca 先生が公開しているさまざまな映像についての情報を得ることができたので、復習するとともに授業に取り入れていきたい。

### 4. フォーラム

参加したフォーラムの中の、特に興味深かった二つのフォーラムについて言及したい。

ひとつは日常的表現やスラングについてのフォーラムで、数多くの表現や語彙の意味と解説が、語源や歴史に遡って行われ、資料としてメールで配布された。日本で生活している以上、これらの語を増やすのは難しいので興味深く拝聴した。映像や音声資料がなかったことだけが非常に残念だった。

FLE とは関連のないテーマであるが、西洋絵画における女性の表象に関するフォーラムは、個人的

に非常に関心のあるテーマだったので、受講を楽しみにしていた。(本年度もブザンソン唯一の美術館が閉館していたので尚更だった。)ほとんどが女性の参加者だった。短い時間だったが、スライドで、中世や近世はもちろん、重要な現代の女性芸術家の作品が数々紹介され、非常に興味深いものだった。このような文化的な内容の他のフォーラムも是非参加したいと思ったが、FLE 関連のフォーラムと重なっていたため参加できず残念だった。

# 2014年夏期フランススタージュ報告書

匿名希望①

1. 受講場所：ブザンソン

2. 研修期間：2014年8月4日－14日

3. 研修スケジュール

8時30分～10時 1限

10時～10時30分 休憩

10時30分～12時 2限

12時～13時30分 昼休み

13時30分～15時 3限

15時30分～17時 フォーラムもしくはアトリエ

4. 受講内容

4. 1. 1限：Dynamiser les pratiques de classe à l'oral（講師：É. Dufour-Merle）

◆対象：入門～B1 初・中級まで

◆講義内容：生徒の口頭表現力を向上させるために必要な活動

➤ 生徒に関心を持たせるための工夫

入門クラスでは、発言に臆病になる未熟な学習者や学習に熱心でない生徒に興味を持たせ、積極的に参加させるための活動を学びました。

まず発言しやすいクラスの雰囲気作りが大切でゲームを多く取り入れることも必要です。学習者同士名前を覚えるためのゲーム、基礎単語を使ったしりとり、ペア練習は毎回同じクラスメイトとでなく別の人とさせるなど、楽しく学ばせ学習者間の良い関係作りも必要とのことでした。

日常言語が使える初級～B1 レベルクラスに有効な活動として、討論、ビンゴ、ロールプレイングゲーム、ひとり芝居などを教えていただきました。

➤ 音声資料の活用

天気予報、ニュースフラッシュ、映画など映像・音声資料を積極的に取り入れることを学びました。

資料使用前、使用中、使用后と活動を三段階に分け、使用前には資料が扱うテーマについて質問を投げかけるなどして生徒に関心を喚起し、音声を聞くまたは映像を見る二段階目では展開される状況や文脈を理解・把握させ、場所・時間・登場人物やキーワードなど詳細を突き止めるよう仕向け、活動の仕上げである最終段階には資料を使って学んだ表現を定着させるため応用練習を取り込むとのことでした。

#### 4. 2. 2 限：Jeux et activités coopératives en classe de FLE（講師：O. Gentet）

◆対象：入門～初級まで

◆講義内容：主にゲーム

> ゲーム

学習言語を発してみる喜び、他の学習者との楽しいやりとりを学習者に芽生えさせるのが目的の授業でした。自己紹介のためのボール遊び、単語や数詞を学ぶための黒板を使ったゲーム、動詞の活用を身に着けるためのカードゲーム、聴覚型学習者のためのシャンソン、視覚型学習者のためのポスターや映像資料、長文暗記ゲームなど、教室にあるものや先生が準備してくださった道具を最大限に活用して様々な活動をしました。

> 模擬授業

授業参加者がそれぞれの言語で模擬授業をしました。東京のスタージュで学んだことと重複しますが、学習者が学ぶ言語で授業をして理解をさせるということが容易でないことを再確認しました。

#### 4. 3. 3 限：Favoriser les pratiques ludiques en classe de FLE（講師：F. Vermeersch）

◆対象：入門～B1 初・中級まで

◆講義内容：主にゲーム

ペアの学習者の容姿を描写するゲーム、絵を見て即興で物語を創作する活動、地図を見ながらペアで道案内、人生ゲーム、ビンゴなど毎回様々なゲームを受講生同士で実践しました。生徒が全員一斉にゲームを始めるよりもまず代表グループがゲームをして他の生徒に見本を示す方がスムーズに進行し、またゲームのルールをすぐに理解しない生徒がいるためゲームは慣れるまで、ゲームを使って学ぶ文法事項が定着するまで何度も繰り返し続けることが大切とのことでした。

#### 4. 4. アトリエ：EkriR à O2woua.... Écrire à haute voix ! Atelier d'écriture « texto »（講師：C. Collomb）

◆講義内容：携帯電話の短いメッセージなどで使われるフランス語表記法

伝統的な格調高いフランス語とは異なり「テキスト」のフランス語には逆さ言葉や隠語・特殊用語や略記が見られます。ただの若者の間の流行とせず一つの言語現象として観察し表記法を学びました。

アトリエ最終回にはスタージュの報告書を「テキスト」で書きました。

#### 5. 講習の感想・成果

東京でのスタージュと同様非常に有意義なものでした。授業で行う活動のバリエーションを増やすべくスタージュに参加させていただきましたが、どのモジュールも私の期待以上でした。経験豊富な先生方にたくさんのテクニックを教えていただき、模擬授業もさせていただき自信がつき、教員として成長できたと実感しています。実際に勤務先で今回のスタージュで学んだ活動を早速いくらか実践

してみました。どれも少人数のクラス向けの活動だったので、40～50人の私のクラスでは小さなグループにクラスを分ける必要がありましたが満足できました。

## 6. ブザンソン生活情報

大変治安が良く、自然に囲まれ、現地の人も優しく、本当に素晴らしい街でした。コンサートや演劇、映画上映など文化イベントも毎日催され充実した生活を送ることができました。ただ8月上～中旬だったのにもかかわらず非常に寒かったので上着をお持ちすることをお勧め致します。

## 7. 写真

Citadelle から眺めた街の写真です。



以上です。

## 夏季フランス研修報告書

匿名希望②

### 【1】研修

#### (1) 時間割大枠

初日に「説明会」があります。日本からの研修生が研修を修了するには、研修期間（8月4日（月）～14日（木）の平日9日間）に、3個の講座（modules）に加え、1個の「アトリエ」または少なくとも5個の「フォーラム」に登録し、修了しなくてはなりません。修了のためには、講座では欠席が1度まで許されます。フォーラムとアトリエは、出席すれば修了できます。登録の変更は、2日めの昼休憩までに申請すれば、可能です。私は、下の表に示す網掛けした時間帯の講義とフォーラムとに出席し、修了しました。

Semaine	Lundi 04/08	Mardi 05/08	Mercredi 06/08	Jeudi 07/08	Vendredi 08/08	Lundi 11/08	Mardi 12/08	Mercredi 13/08	Jeudi 14/08
I 限 8h30～10h00		Module 1	Module 1	Module 1	Module 1				
II 限 10h30～12h00		Module 2	Module 2	Module 2	Module 2				
III 限 13h30～15h00	Module 3	Module 3	Module 3	Module 3	Module 3	Module 3	Découverte	Module 3	Module 3
IV 限 15h30～17h00		Forum / Atelier		Forum / Atelier	Forum / Atelier				

#### (2) 講座の内容と成果

I～III限は、講義です。提示される幾つかの講座から、3個の講義を選択して受講します。私が選択した講座について、講座名・内容・成果を記します。

I 限	Pratiques de classe: Enseigner dans une perspective actionnelle	M <sup>me</sup> . Laura MONSACO DONAS
-----	---	--

この講座の選択理由 自分に乏しい「外国語指導法」の知識を補い、とくに「行動主義」の考え方について詳しく学びたかったから。

内容 期間の前半は、教授法の理論の説明が中心でした。後半は、教科書分析と指導案作成が中心でした。ほぼ毎回グループになり、後半には、実際に自分たちで討論しながら教科書を選定し、授業を組む実習をしました。具体的な模擬授業は課せられませんでした。指導案を作成して最終日に提出するという課題が与えられました。指導案作成のために図書館（メディアテーク）を利用する機会がありました。講師の先生が体調不良となり、講義1回半が自習となりました。

成果 私が「外国語教授法」を学んだ経験は、東京でのルー先生の講義が最初です。このI限の講座が、東京で学んだ内容を再度、別の先生から学ぶ機会になりました。また、私は指導案を提出することができました。各回の講義は、様々なルーツをもつ研修生と討論を通して親しくなる貴重な機会でもありました。これらの一方で、指導法の理論をフランス語で学ぶことは、私のフランス語力の低

さから、教材の理解や、考えの表現に際して、困難な場合が多かったです。先生は感じの良い方でしたが、話される内容は難しかったです。

II限	Jeux et activités coopératives en classe FLE	M <sup>me</sup> . Olivier GENTET
-----	--	----------------------------------

この講座の選択理由 (III限と同様に) 勤務校で設立した「フランス文化研究同好会」の活動に、生徒が楽しくフランス語を身に付けられる遊びを採り入れたかったから。

内容 毎回、講師の先生が様々な「言語学習の遊び」を紹介し、私たちはその「遊び」を体験しながらその効果を検証しました。例えば、アイス・ブレイクの方法に始まり、活用語尾の記憶を助けるカード遊び、競争を採り入れた暗記の遊び、身振りを使った単語・イディオムの教え方などを体験します。そのあと、それらの効果、それらを少し変形させる工夫の実例などを話しあい、今までに自分たちが試みた関連する「遊び」についても紹介しあいました。市販されている言語関係の遊具の紹介などもありました。最後の課題は、日本語、スペイン語、チェコ語のチームに分かれ、これらの言語の初歩の授業を、この講座で学んだことを活かして、他の研修生に対して行なう、という模擬授業でした。

成果 多くの「言語学習の遊び」を体験しました。体験型の授業なのでメモを取ることは難しいですが、「遊び」をしている光景の写真を頂けたので、日本に持ち帰ることができ、思い出す助けになっています。身体活動を通して単語や用法が身に付く様子を実感しました。この講義自体が、授業の良いモデルでもありました。この講座を受講していたメキシコ、チェコ、韓国、イラン、北スーダン、アゼルバイジャンから来ている研修生と、「遊び」を通して親しくなったことは、私の収穫の一つでした。

III限	Favoriser les pratiques ludiques et créatives en classe FLE	M <sup>r</sup> . Frédéric VERMEERSCH
------	---	--------------------------------------

この講座の選択理由 (II限と同様に) 勤務校で設立した「フランス文化研究同好会」の活動に、生徒が楽しくフランス語を身に付けられる遊びを採り入れたかったから。

内容 この講座のねらいと内容は、II限とよく似ていました。つまり、毎回、講師の先生が、言語学習のための様々な「遊び」を紹介し、私たちがその「遊び」を体験しながらその効果を検証するという講義です。時間配分や理論面で、少々まとまりのなさを感じましたが、内容も先生も楽しかったです。この講座でも、最後には、自分たちで新しい「遊び」を考案し、シートにまとめて共有する活動がありました。そのシートには、何を習得するための「遊び」か、適切な人数、使用するツール、「遊び」のルールなどをまとめました。

成果 この講義でも、多くの「遊び」を体験しました。私にとってII限の内容を補う講義でした。アゼルバイジャンからの3人の研修生、モロッコからの4人の研修生にも出会え、交流できました。

### (3) フォーラムの内容と成果

「フォーラム」とは、第IV限（15時30分～17時）にある講演で、毎日2種類から1種類を選んで聴講するものです。私は次の5個のフォーラムを選択しました。それらの内容と成果と記します。

1	8/05（火）	Dynamiser ses pratiques de classe à l'oral avec la démarche RFI	J. COUSSEAU
---	---------	---	-------------

内容 RFIの方が講演されたせいか、RFIが用意した、フランス語学習に応用できる番組やサイトの紹介が主でした。

成果 RFIのサイトに、フランス語学習に応用できる音声データや、理解のためのワークシートなどが置かれていることを知りました。私は他にも、教材となるようなラジオ番組の紹介、録音や編集の技術、番組から教材を作る方法について学びたいと感じました。

2	8/06（水）	Présentation du Nouveau Dictionnaire des difficultés du français	J-P. COLIN
---	---------	--	------------

内容 フランス語の性質に起因する、仏語辞書を編纂する際の困難についての講演でした。

成果 辞書編纂の際に見える言語の特質を、フランス語について専門家が話すのを聴く初めての機会でした。「辞書は、規範・鑑であると同時に、くだけた口語も掲載する必要がある」ということを念頭において、聴かせていただきました。

3	8/07（木）	Le français familier et argotique - Séance 1 -	P. RICHETTO
4	8/08（金）	Le français familier et argotique - Séance 2 -	P. RICHETTO

内容 フランス語における、くだけた表現・アルゴ（隠語）の由来、造語法の傾向、造語法や接尾辞などによる分類に関する講演でした。

成果 講師の先生が作られたアルゴの分類や辞書を電子データで頂きました。多くのアルゴを紹介されたと同時に、その語・表現の誕生に影響した文化・歴史についても知ることができました。

5	8/11（月）	Mode d'emploi pour une pédagogie active	C. Collomb
---	---------	---	------------

内容 テキスト・オタンティックから教材を作る実例を見せていただきました。

成果 東京での研修で、ルー先生がV. ユゴーの詩を素材に作られた問題を学びました。それに類する例を、このフォーラムでも学びました。

## 【2】研修中の生活

### (1) フランス到着

到着ロビーで自分の名前を書いた札を持った方を見つけ、合流します。以後の手続きに必要な書類

を、この方から受け取ります。また、この方は両替所で奨学金を受け取る際にも付き添ってくださり、さらに、ホテルまで送ってくださいます（指定されたホテルでなくても宿泊でき、連れて行っていただけます）。

## (2) ブザンソン到着

指定された TGV（「リヨン」駅発）に乗るとき、日本からの他の研修生と合流できます（事前にメールで連絡を取りあわなくても会えました）。「ブザンソン・ヴィオット」駅で下車すると、そこで CLA の学生の出迎えがあります。寮《アダジヨ Adagio》まで連れて行ってもらえました。

## (3) 寮

寮に到着して名前を言えば、すぐ入れました。私は開講前日 8 月 3 日（日）夕方に入寮しました。掃除は週 1 回で、希望曜日を訊かれましたが一度も掃除がありませんでした（浴室のマット・バスタオルは、勤務時間内で早めに言えば交換してもらえます）。寮から学校までは、徒歩で 20 分です。洗濯室が 1 階に 1 台あり、有料で 20 時までです。朝食（8 ユーロ）をとれる清潔なレストランがありますが、各室にキッチンがあり、自炊する人が多いです。

## (4) ホームルーム

数か国の研修生 10～20 名に対し教員 1 名が付く、ホームルームのような単位が学校にあります。開講と閉講の時以外は、困難があればその教員に相談するという場です。修了証は、閉講時にこの教員から受け取るのですが、出発を早めたい人は、その旨を申し出ると最終日の早い時刻に貰えます。

## (5) 気候・服装

一日に天気は何回も変わり、雨が多いです。夏期は寮のエアコンが稼働しません。排水溝から水が溢れるほどの雷雨のあと止むということが 1 日のうちに 2 度ある日もありました。男性でも、早朝・遠足・雨天のとき、雨具はもちろん長袖や厚めの服が複数着あったほうがよいです。

## (6) 学校での講義以外の時間

休憩時間が 30 分間あることに助けられます。他の研修生と話したり、事務所の前にある小さな出店でコーヒーやサンドイッチを注文したりできます。昼の休憩が 90 分間あり、外食したり短時間なら寮に帰ったりできます。

## (7) 買い物

旧市街にコンビニ《カジノ》が複数あります（品揃えは店ごとに異なる）。食料品の調達には、徒歩圏に《Mono-Prix》が 19 時まで開いており、自炊に便利です。

## (8) 課外活動

初日の「説明会」でパンフレットが配付されます。これを参照して、参加したいイベントの計画を早めに立てておくと思います。私は、研修生用の行事のうち、6日（水）の観光船乗船、10日（日）早朝からのドウ（Doubs）の滝への遠足、12日（火）のサラン・レ・バンへの遠足に参加しました。ブザンソン市の文化については、《時の博物館》や教会を見学したほか、8日（金）には《ヴォーバンの城塞》の見学や野外劇鑑賞をしました。9日（土）は、個人的にディジョンとボーンを訪れました。

以上

# 報告書

匿名希望③

## 1. 受講したクラス

私が受講したのは、教員のオラル能力の向上を目的としたクラス（以下①と略記）、インターネット・サイトを活用した教育法を教えるクラス（②）、電子ホワイトボード（TBI）を用いた教育法を教授するクラス（③）の3つです。そのほかにも、平日にはいくつかのオリエンテーションに参加しました（後述）。以下にまず、この3つのクラスで具体的にどのような授業を受け、いかなる作業を行ったのかを報告させていただきます。

## 2. 何が学べるか

### クラス①（担当教員：M. Dujardin Guillaume）

このクラスでは、グループ学習を中心に授業が進められました。同様の趣旨のクラスがもうひとつあり、そちらの方はレベルが高いという設定でしたが、クラスで実施するアクティビティのレベルがじゃっかん高いというだけで、両クラスともほぼ同レベルの授業だったように思います（1日目にもう片方のクラスを選択し比較した結果）。

大学の教室等でおこなうことのできるアクティビティを、このクラスに参加した教員たちが実践し体験するのですが、提案のあったグループワークの種類は豊富で、1) 紙片を用いたもの、2) 立ちあがって机を脇にどかして行うもの、3) ひとりを取り囲むかたちで行うものなどがありました。

それらの内容を具体的に紹介すると、1) には、紙に数行に渡って書かれたテキスト a から e（ジャック・プレヴェールの簡単な詩）を、順番通りに並べ替えるというものがありました。これは3人のグループで行いました。2) は、6人くらいで行うもので、「むかしむかしあるところに」という定型表現からはじめて、前の人が述べた内容に続けて、ひとつの物語を1グループで共同してすこしずつ作ってゆくという内容でした。3) では、ある通りで事件がおこったという設定のもと、まず2人組になってアリバイを考え、口裏合わせをします。次にひとりずつ、全員が待機する前に歩みでて、いくつかの質問に答えます。このとき、ペアになった二人の証言に齟齬があったら負けになります。

これらの体験を通して、この授業では、どうしたらアクティビティを活性化できるかという問いに対する、具体的なこたえを知ることができました。いずれの例も、すぐにでも応用可能なものであったことが印象的でした。

### クラス②（担当教員：M. Shungu Athanase）

このクラスは、インターネット・サイトを紹介してもらうことがメインでした。一人に一台 PC が与えられたのですが、まず、FLE に関するサイトがかなりの数あることに驚きました。エグゼルシスの種類は豊富で、聞き取りに関するもののほかに、読み書きに関するもの、また年少の学習者が楽しんで行えるジグソーパズルのようなものもありました。こうした遊び感覚のエグゼルシスは、宿題と

して活用するのに適していると思われました。

### クラス③（担当教員：M. Dujardin Guillaume）

電子ホワイトボード(TBI)は、アフリカや中東の教育現場ですでに取り入れられていることもあり、この授業は非常に人気が高かったようです（ネットでの登録を早めに行ったため、履修することができました）。各自に割り振られた PC を用い、TBI の使用法を学びました。PC には専用のソフトがすでにインストールされており、そのなかにある雛形をもちいて、アクティビティの作り方を学びました。最終的には、各自がデスクトップ上に固有のアクティビティを構築し、それを前方のスクリーンに映してエクスポゼしました。

### 3. 学んだことはどのように活かせるか

続いて、今回学習した内容が、どのように授業で役立てられるかについて報告します。

①のクラスで学んだことは汎用性ももっとも高いと思われます。とくに、自分が担当するクラスがうるさかったり、居眠りが多かったりする場合、上述のグループワークやそれに類するものを行うことで、学習者の集中力を高めることができます。とりわけ創造性を鍛えることができるので、大学以上のクラスで活用することができそうです。来年度のスタジエールのみなさんには、この種のクラスをひとつ履修しておくことをおすすめします。

②の授業で知ったサイトは、もしもひとりひとりに PC なりタブレットがある環境ならば、問題を解かせる方式で、学校の授業でも実行できます。ですが実際には、PC ルームでの自習や宿題により適しているように思います。自分でサイトを新たに作る必要性はほとんど感じられません。それほどまでに既存のサイトは充実しています。レベルに関しても、小学生から社会人学習者まで、幅広い層に対応した問題が用意されています。

③TBI の知識は、現状の日本ではほとんど役に立たないでしょうか。ただ、やはりインタラクティブの面で他に類を見ないすばらしいシステムのように感じたので、今後の改善に期待したいです。TBI の普及していない日本では、その使用法を学べる講座もほとんどないと思うので、来年度のスタジエールのみなさんには、ぜひ積極的にこの授業を履修してもらいたいと思います。

### 4. 問題点など

②のクラスに関して、サイトを紹介するだけのクラスなので、すでに一定量を知っている方には得るものがないと思われます。①と③を担当した教員は、教育者としての人格や個々の対応がすばらしく、見習える点が多かったので、積極的な受講をおすすめします。

### 5. オリエンテーション

意外と重要なオリエンテーションについて報告します。免状を取得するには、最低 3 種類のオリエンテーションを受けねばなりません。大きくわけて、ブザンソンを紹介するものと、FLE に関するものがあります。双方で履修者数に制限を設けたクラスもあり、その場合は早いもの順で決まるので注

意が必要です。

前者に関するオリエンテーションを取る必要性はあまり感じられませんでした。フランス語教育にとくに関係ないからです。後者は、日本のスタージュで教わった内容を、フランス語でもう一度確認するといった内容でした。

## 6. 最後に

私たち後半のグループは、残念ながらあまり団結がありませんでした。他の国のスタジエールは団結が強かったので、来年の方々はそうなるとよいと思います。

滞在したホテルは、ネット接続の面でやや問題がありました。有線 LAN を使用できない種類の PC を持参した私は、部屋でネットにつなぐことができませんでした。

一番大変だったのは、初日の集合場所がきちんと配布資料に記されてなかったことです。宿から授業のある大学まではかなりの距離があり、この点を明記する必要を感じました。また、行きの TGV がかなり遅い時間だったので、昼前に出発する便でも良かったかなと思いました。ブザンソンに到着したのがすでに夜中で、CLA の場所や大学の位置の確認などがその日の内にはできませんでした。

全般的に研修中はすばらしい体験をし、多様な経験を積むことができました。このような貴重な機会を設けてくださった関係者のみなさまに、あらためて感謝したいと思います。